

愚得隨筆

四

和書門			
類	號	函	架
一	一	二	一
四	三	六	四
四	四	四	四

內閣文庫			
類	號	冊	函
和	一	一	五
書	七	四	四
	四	三	二
	四	四	二

內閣文庫	
番號	和 17434
冊數	14 (4)
函號	154 17



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



愚得隨筆卷四

甲曹類二

目錄

腹卷 背板

筒丸 杏葉 具足

腹當 同圖

金洞 札惟子 鎖惟子 帽子曹

小具足 著背長

甲著

鑑唐櫃

前字

花迺家文庫

淺草文庫

體直垂上下 脚半 同圖

梨子巾烏帽子
首張頭巾

草 天平草 正平草 表草 錦草 鴨草

高山皮 紀伊國皮 丹後目結 墓目皮

草蒲草 杉立草蒲 八幡黒草 鹿丸草

繩目草 小文藍草 魚草

愚得隨筆 卷四

日下部景衡集

甲冑類二

腹卷 見附多

背板 見附多

愚按左右ヨリ引廻シ背ヲアハセ上下引アハセノ紐アリ近世皆
板ト云モノアリムカシハナキモノナリ腹巻ヲハ上ニモ着ニ裝束ノ下ニ
モ着セシ也上ニ着スル時ハ袖小ナリヲモ付ルナリ

大腹卷 ○博士判官兼成カ下部ニ金武ト云放免アリ究竟大刀大腹
卷ニ左右ノ小ナリ指ホカヲ抜テ向會タリ 盛衰記

○慶秀ハ白帷子ノ脇カキタルニ黄大口着テ萌黄ノ腹巻ニ袖
付タリ 盛衰記

○兼隆紵ノ小袖ニ上腹巻着ニ太カヲ額ニ當膝付居テ敵ヲ待ツ 盛衰記

○院参布衣侍士二人御供ニテ各布衣ノ下腹卷着 東鑑

○市夜又瀧夜又トテ大ノ童ノミメヨキフ三人滋目結ノ直垂ニ菊

内シテ下腹卷ニ夫負 盛衰記

○青狩衣ノ下ニ萌黄糸威ノ腹卷着ヲ鳥帽子ノ尻盆ノ窪ニ

押入テ狩衣ノ小袂ヨリチヲ出シ 盛衰記

○糸圓坊阿闍梨度秀ハ下腹卷ニ衣装束長縮袈裟裳ニノ

頭ヲツミ打刀前垂ニ指 日記

○土肥次郎ハ木蘭地直垂ニ膚腹卷ヲ着タリ 日記

○下腹卷ニ鳥帽子カケシテ太刀ハカリ帯 日記

○信連ソノ夜ノ装束ニハウスアヲノ狩衣ノ下ニ萌黄勾ノ腹卷

着テ衛府ノ太刀ヲヒタリ 平家物語

○玉田ノ宿祿^{ヨシ}甲^ヲ服^ヲ襖中参^リ赴^ク甲端自衣中出 日本書記

○北面諸司恰^カ勒^カハ大略狩衣ノ下ニ腹卷ヲ着映^シタルモアリ 太平記

○妙法院宮ハ生絹ノ御衣下ニ萌黄ノ御腹卷トヤ着給^リ増鏡

○腹卷ハ背^ノワリ^ニテ背^ノ合^{タル}所^ニ後^平板^有或書^ニ源賴義

後平板奥州陣時鏡ノ押付一通引キレシラ腹ニアテ給是腹當

伊ノ腹ノ起也背ノアキタル所ハ背板ヲ入是ニケサニ一枚付ル是ヲ伊

矣子腹卷ト云トアレハ當時腹卷ハ賴義ニ起ルニヤ然^レ其說

古書ニ不見 日婁然高説

○モクテニ地ノ直垂ニ紫草腹卷 保元物語タカラノ四郎腹卷

○平治合戦ノ取六波羅入道共人四人皆布衣下腹卷 古事記

○腹卷ノ一ノ板

筒丸 杏葉 具足

愚按胴丸ト云ハノリヤチ揺小札或大荒目ニシテ蝶ツガヒナリ引廻シテ馬手ノ眼ニテ引合セシ物也杏葉ヲ付ル是ハ鳩尾梅檀ノ畧制也又鑑ノ下ニモ軍子着セシ欲テ強ク射シ者ハ胴丸腹卷ヲ用ヒシ近代ノ具足ハ此胴丸ニナラヒシモノ也

○下学集曰日本俗イフ所也但筒或ハ同ニ作ル無体也是人身ヲ以テ竹ノ筒ニタトフル也同ノ字無体今用之事何哉

○弓能射者ハ胃ヲ着セシ腹卷腹當筒丸トドヲ着テ矢倉ニ上レ 盛衰記衣笠合戦

○射子ノ兵ハ同丸腹當帽子胃ニテ楯ノ左右ハ流シテ雨ノ降ルコトク射タリケリ 明德記

○野木子兵衛入道頼玄同丸ノ上ニフシナワメノ大鑑スキマモナリ著

ナシ 太平記

○大荒目胴丸 庭訓往来

○年十五六計ナル小兒ノ髪唐輪ニ上タルカ麴塵ノ筒丸ニ大ロソバ高ク取り金作ノ太刀ヲ拔テ 太平記

○海東幸若丸麴塵ノ筒丸ヲ著ス萌黄ノ筒丸ハ大炊御門冬信郷水テノ下ニ着ニ給フ 太平記

○見抄碑云陸奥守源義我家奥州陳ノ取伴資兼胴丸ヲ制シ奉ル是胴丸ノ權輿也

○松下嘉兵衛或取尾刈信長公御家中ニハイカヤウノ具足ハヤルット尋ニニ秀吉兼リ尾張ノ國ニハ桶皮筒ニハ事変リ

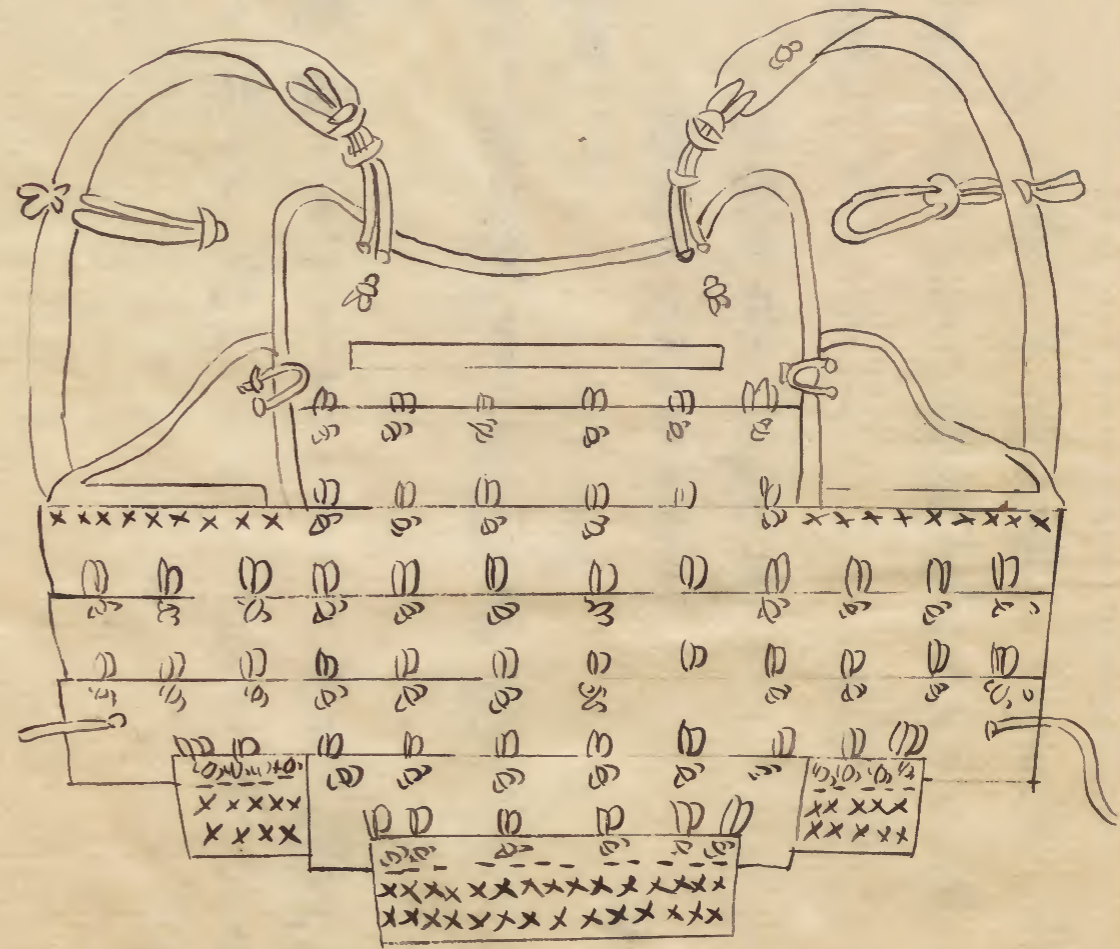
胴丸トテ右ノ股ニテ合セ伸縮自由ナルヲ以テヲシテ是ヲ
用ユル由申サレケレハサラハ其具足曹カフテ巻レテ黄
金五六兩渡シツカハシケリ
太閤記

腹當

腹巻ヲ畧セル物ナリ前バカリニアテ左右ノ股ハツカニカリ
テソレヨリ綿嚙ヲセリ弓ヲツヨク射者ハ腹巻腹當胴
丸ヲ着セシ也

- 行小手ニ腹當シ諸具足シタル中間ニ馬ノ白ヲラス 太平記
- 弓小手ニ腹巻シタル 異本太平記
- 腹當 盛衰丸胴丸ノ下合可見
- 腹當 明徳記胴丸ノ下合可見

腹當之圖



見附考
金胴

札帷子 鎖帷子 帽子曹

愚按近世俗ニ着籠ト云モ也金胴ハ桶ガハ胴ノゴトリ作りテ一

段ツ、包直懸ニオトス也イカダ鉄入タルヲバ札帷子鎖ハカリニテ作シ

ル見附考鎖帷子ト云也帽子曹ハ今ニクサリ頭中也金胴録ヲハ鑑ノ

下ニ重テ着タリニナリ

○畑六郎左衛門金胴ノ上ニ火威ノ甲ヨロイノ敷目ニ拵タルヲ草摺長

ニ着

太平記畑六郎左衛門ノ

○一色左京大夫ノ装束ニ赤地ノ純子ニテ包ミタル金胴ノ上ニ白

糸ノ鑑ノツマ取リタルヲ二領着童子給テ同毛五枚曹ニ五

尺ニ寸ノ銀ノ鍬形ヲテ猪頭ニ着或人曹ヲ猪頭ニ着ト云ハ矢石ヲ明徳記

録
○帽子曹ニ録ヲ着テ足輕ニ出立時モアリ
太平記畑六郎左衛門ノ

録 ○妙観院ノ因幡堅者全村トテ三塔名譽ノ悪僧アリ録ノ上ニ大
荒目ノ鎧ヲ重テ着 太平記

日 ○弦走敵ヲソミタリケル足助是ヲ聞テ此者ノ云様ハ如何様鎧ノ
下ニ腹巻カ録カヲ重テ着タレバヨソ前ノ矢ヲ見ナガラ此ヲ射ヨ
ト敵ソラン 太平記

○録ノ上ニ鎧ヲ重テ着 太平記
○然野人ト見ヘテ長ケ七尺斗ナルカ大鎧ニ半首掛テ帽子兜ノ上ニ五
枚兜ヲ重着 異本太平記

着籠 ○中原章信白禰ニ著籠ニ帯劔シテ 参考太平記
○坂四郎永覚帽子兜ニ五枚兜ヲ着ル 平家物語

著長 物具 也羽國ノ住人吉茂秀武ト云者アリモナ来ル飯

酒ヲ皆從者共ニシレテ長櫃ナドヲバカドノマヘニウテステ着長トリ
着テ即等氏皆物具セテ出羽へ逃テイニケリ 後三年記

○新院左府モ却着長ヲ脱タマウ 参考傳元物語

○木曾殿今井白郎只主從ニ騎ニ成テノ給ヒケル六日比ハ何氏覺ヘヌ
鎧カ今日ハオモフナツタルソヤトノ給ヘハ今井白郎申ケルハ御身
モイマタツカレサセタマヒ候ハス御馬モヨリ候ハス何ニヨツテ領ノ
却着長ヲ俄ニラモウハ思召シ候ヘキソレハ味方ニツク勢カ候ハ子
ハオクビヤウニテコロ思召候ラメ 平家物語

○師直著長ノ料ニ同モノ鎧ヲ二領マテ置タリケルヲ上山走寄ヲ
唐櫃ノ緒ヲ引切テ鎧ヲ取テ肩ニ掛懸ケルヲ武藏守ガ差黨

鑑ノ袖ヲ扱テ是ハ何ナル御事候ソ執事ノ御著長ニ候者
ヲ案内ヲモ申サレ候ハテト云テ奪シト引合ケル時師直是ヲ
聞テ馬ヨリ飛テ下リ若黨ヲハタト睨テ無之申變者ノ振舞
哉只今師直が命代之人ニ縊子函方西ノ鑑ナリ何カ惜カ
ルキゾコノケト制シテイモウメサレテ候者故ト還テ上山ヲ被
感
大平記四條繩子合戦上山討死

○或記云御着長將軍ノ限タル事ナリ但ニ御鑑氏申候御成
ナトノ月録ニハ必ず御鑑トアリ如此常ニ申未候愚按テ下ヨリ上
ヲ敬ヒ云言葉ナリ

○童代著長唐草ヲ唐櫃ニ入テカセラル
平家物語
見附
小具足

小具足ト云ハ小道具ト云コト也事急ニ臨テハ小字ニ曹ヲ着ル
ヲ小具足着テト之也

○毛利冠者頼隆緋村濃直垂小具足加常流傍既ク東鑑

○御甲著一人御曹持一人御小具足持一人東鑑

○入道小具足取付腹卷着 盛衰記入道院参止

○赤地錦直垂ニ鑑ハ熊ト着サリケリ小具足ハカリニ長

覆輪ノ太刀帯キ 盛衰記

○將軍サテハ今夜ヲカギリコサナシ面々其用意スヘシトテ

鑑ヲハ脱テ推除ケ小具足斗ニナリタマフ 太平記

○急ケ殿原ト下知シ鑑小具足取出シ 盛衰記

○新田左中將義貞朝臣赤地ノ錦ノ直垂ニ服立ハカリシテ遠

侍ノ座上ニ坐シ給ハハ服屋右衛門佐ハ緋地ノ錦ノ直垂ニ小具
足ハカリニテ左ノ一坐ニ着給フ 太平記

○村田ノ族六騎小具足計ニテ誰カ馬氏ナリヒタクト打乗 太平記藤井寺合戦

○平五郎兵衛盛綱鎧ハ脱テ小具足ニ太カバカリ帯テ白母衣

カケ 義久記

○土肥次郎實平公クラニ地ノ直垂ニ小具足斗ニテ隨兵廿余騎

ヒキクシ 平家物語

○義朝赤地錦鎧直垂ニ脇立小具足斗ニテ太刀帶烏帽子

引立庭上ニ跪 保元平治京師本

○村上又太郎長高褐直垂ニ小具足斗ニ折烏帽子引立テ 参考太平記

○左右ノ城戸口ノ弱カウシ時軍セニトテ鎧物具脱置テ小具

足ハカリニテ居タリ 盛衰記義経落鴨越

○腹巻ニ小グソクサシカタメマツサキニス、ミタリケリ 平治物語

○馬ヨリ下リ物ノ具ヌギステ鎧ヒタレ小具足太刀刀馬クマデ取

マツメ是ヲマイラス程ニ余バカリタスケ給ヘトテ午ヲ合ス 平治物語信賴降参

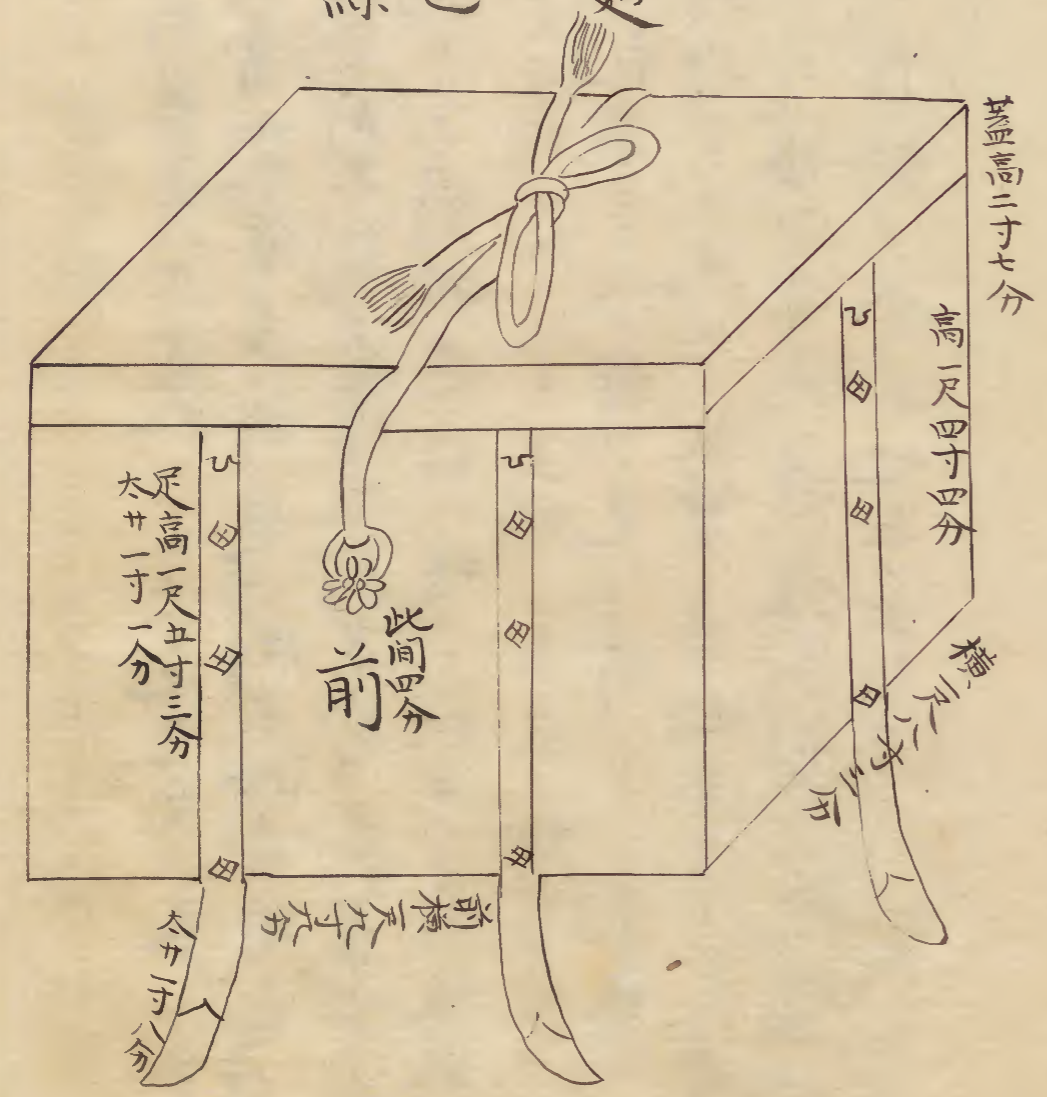
甲著 ヨロヒキ

愚按上古ハ遠所他行ノ時ハ主君ノ御體ヲ着テ供奉セシ也是
ヲ御鎧着ト云其時ハ甲ト云着ニテ服ニテスル故實ナリ

のりて置るる櫃の海を以て飾りて源倉庫に置るるは不修なり
 是れを以て送るる
 太平記曾山元才修禪寺城籠事

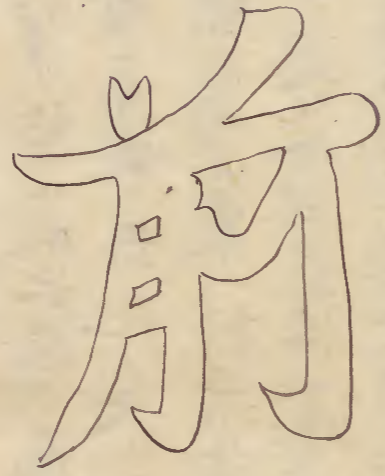
八幡寶藏源義家公鎧唐櫃式

搥黒塗
 板厚四分
 緒于一二分廻
 長五尺一寸
 房迄一寸也
 色紫練緑
 左右同



前字

鎧櫃前ノ字書ハ字畫九ツアルニ九字文ヲ表シテ書ト云
或人云中庸十九章ニ言前ニ定^{ヤハカ}則不^{ツマカ}路事前ニ定^{ヤハカ}則不^{ツマカ}
困行前定^{ヤハカ}則不^{ツマカ}疚道前ニ定^{ヤハカ}則不^{ツマカ}窮ト云前字也ト云後世
附會ノ説ナルニ思按急ニ臨ニ櫃ヨリ取出スニ前後取^{ヤハカ}方ヘ
マシキタメニテ何ノ心モナキ也ソノ上兵ノ押付ヲ見セヌヲ
本意トス礼家ニテ人ノ鎧ヲ見ルニ前ヲトク見後ヲ見ル
收ハシノ挨拶ヲシテ見ルヲ故實トス也字畫ノ不切續クワ
ニ調ヲ習トス八幡山寶藏ニ源義家朝臣ノ鎧櫃一合アリ
此前字ハ真鍮ノ金具也左ノコトシ



文字太サ如此但ニ真鍮ニ
テ入ル起上ケ高サ五六
厘程也

鎧直垂

錦ノ直垂ニ石カノ征矢却免ヲ蒙リ候ニ具最後ノ御思ナ
リト所望申^{盛衰記}トアレハ平六免許ナク錦ノ直垂ハ着用
禁セシト見ヘタリ

○寶盛モトハ越前ノ國ノ者ニテ候シカ近年御領ニ付ラレテ武

藏國長井ニ居住仕リ候キフノ夕トヘノ候ソカシ古郷ハ錦ヲ
着テ歸ト申事候ヘハ何ノクルシウ候ヘキ錦ノヒタシテ御免
候ヘカシト申ケレハ大臣殿ヤサシウモ申タリケルモノ哉トテ錦ノ
ヒタシテ御免有ケルト聞シ 平家物語

^{見ゆ}○太力刀金作ヲ除鞍鎧ホノ馬具時繪ノ紋金覆輪錦直垂紫
威ノ籠國司官人級大將ノ外ハ不用之 太平記理書抄

○上古ハ將ヲ任スル取此取ヲ賜テ其國へ行ト也然ルニ此取ヲ得タル
士見易キカ故ニ無礼ノ失ナシ魔時ハ令ニ應ス用ヒスニハ有カ
ス地ハ錦ヲ用ニ哀ハ朽葉薄衣ノ板ノ物タルヘシト云リ長サハ賴
義記ニ三尺五分ト云但シ人ニ因ルヘシ袖長サ一尺六寸 組談

○或抄ニ將軍家ハ赤地錦也人ヨリキヌニテモスルナリ其外ノ侍ハ

布ニテ家ノ紋ヲ顯シ用之テ夕ノ取ハ直垂ノ上ニ鎧ヲ着スル也隨
兵モ其家々ノ紋ヲ付テ直垂ヲ着セシ也 諸抄

○赤地錦鎧直垂

○青地錦直垂

○紺地錦直垂

○赤地錦直垂ニ大頸袴袖紺地ノ

錦ニテタレタル

○裾ノ直垂ニ袖ヲハ紺地ノ錦ヲ付タリ

○裾ノ直垂ニ大襟形袖ヲ赤地ノ錦ニテタテタル

○重目結ノ直垂

○湯目結ノ直垂ニ菊岡シテ

○裾ノ鎧直垂

○紺村紺直垂

○木蘭地直垂

○縫摺直垂

○菊岡直垂

○蝶丸直垂

○三目結直垂

○大文字三穴書名直垂

○秋之野摺名直垂

○白キ絲ヲ群ナ鳥縫タル直垂 ○紫隔ヲ織付タル直垂ニ菊ト

ナシケクシテ

○兼隆緋ノ小袖ニ上腹卷着

○朝敵ヲ鎮ル形ニシ出立ケル彼直垂ニ左ノ肩ニハ八幡大菩薩

右ノ肩ニハ山鳩ヲソ縫タリケル

以上源平盛衰記

○麴塵直垂

○長絹鎧直垂

○朽葉綾直垂

○沢浮ヲ入摺タル直垂

○能登殿舟軍ハヤワアル物トテ鎧直垂ハ着給ズカラメキノメノ小袖
ニ唐綾威ノ鎧着テ ○狂人狩衣ニキタテ大キラカニシ

○魚綾直垂 以上平家物語

魚綾ハ山鳩色 胡曹抄ニ見エ

○高橋判官長綱練色ノ魚綾直垂ニ黒糸ヲトシ鎧着テ盛衰記侯野五郎

○金剛左衛門俊行力士兵衛俊宗ト侍二人鳥黒ナル馬ニ白覆輪ノ鞍ヲ

キテ魚綾ノ直垂ノ下ニ火威ノ腹卷 盛衰記

○鈴木三郎重家キヨリヤウシマスリノ直垂ニ櫻威ノ鎧着 高館弁

○褐ノ直垂ニ獅子丸ヲ縫タル黒キ直垂 保元平治鎌倉本

○下河辺庄同行平御甲ヲ調ハ軟ル今日持參櫃ノ蓋ヲ閉キ却前ニ置ク

緋地錦ノ鎧直垂上下ヲ相副ス 東鑑

○大河原次郎兼任錦ノ脚羊着ニ金作ノ太刀ヲ帶間樵夫アヤシラナ

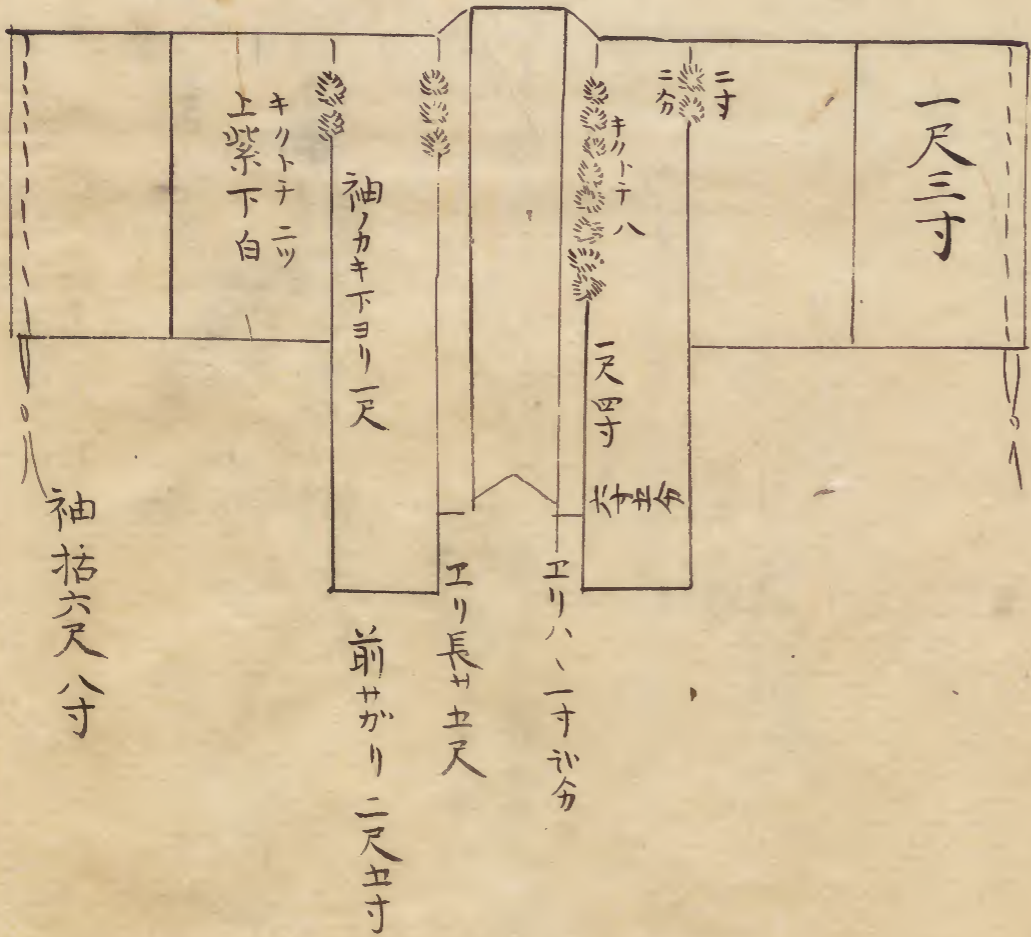
ストム 東鑑

○加州之田中左原太云鎧直垂キリトナ常ノ長絹等ニ同シエリノ角

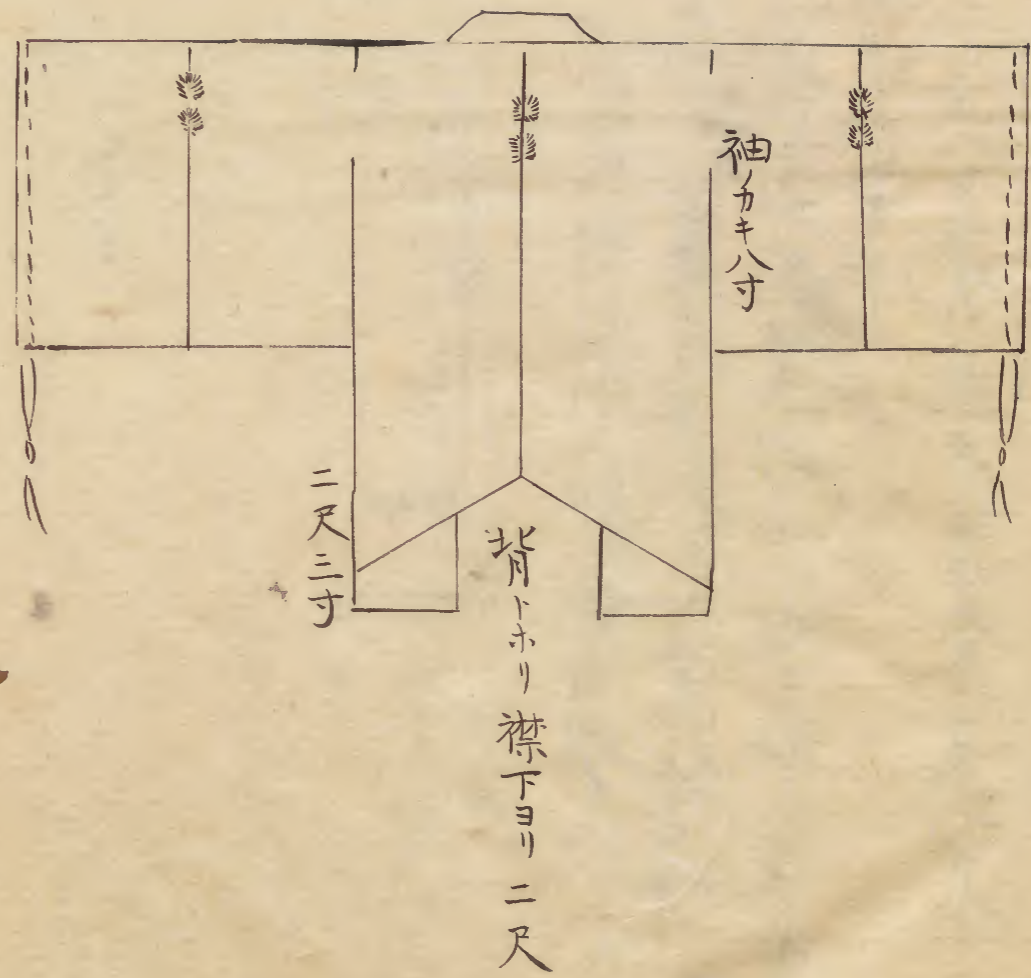
トナヒノ方九ツ下ノ方八ツ是余ノ装束ニナキ所ナリ是九万八千軍神
ヲ胸ノ間ニ勸請スル所也ト云

○弘治元年將軍我輝公ヨリ毛利元就ニ下シ給フ錦直垂上下脚半
其子孫傳ヘテ今ニアリ後ニ圖之着用ノ次才袖ノ紐ヲ中指
ニカケシメテ其アマリニテ袖ヲシボメ結ブ袴ノ紐モク、リシメテ
脚半ヲスルナリ

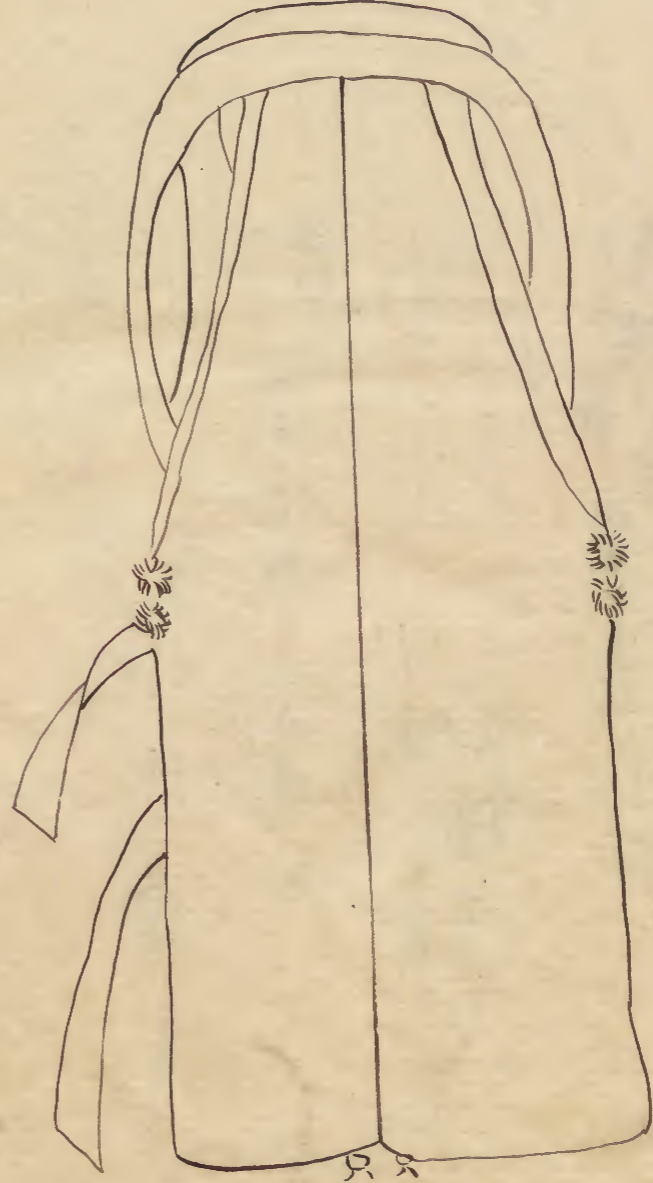
左に袖ヨリ袖ニ六尺



海心類一尺五分



後ノコシカ
袖ノコシカ



脚半直垂ニ地同



モロカヅリ 紐ニ尺六寸
ツ、ニ竹助

上下共ニ裏打片色也

袴前紐長左右二丈四寸

後紐左右合八尺二寸腰内ニイタメ紙入紐ノ地練ナリ

拵ノ緒長二尺八寸餘

○或人云袖シリ同色ノ糸ニテ胸紐アリト云此図本ニハナシ

○纈纈ノ鎧直垂ニ精好ノ口ヲ張セ紫下濃ノ鎧ニ白星五枚冑

ニ八龍ヲ金ニテ打テツケ猪頭ニ著成シ 太平記

○鎧直垂ノ上ヲハ取テ地除ケ袴斗ニ掛羅懸テ將軍御自害アラハ

御供申サ下腰カニ子ヲ懸テ静リカハツテ居タリ

太平記

○圓滿院大夫慶秀ハ白帷子ノワキカキタルニ黄大口着テ萌黄

腹卷袖付タリ

盛衰記

○矢切但馬明禪ハ脇カキタリケリカチ裾ノ帷子ニ白大口洗草腹

卷ニ射向ノ袖付タリ

盛衰記

○平一揆小巾袋幅袴笠符至ルニ色ニ赤カリケル 太平記武藏野合戦

○伊賀判官光秀サラハ治部次郎アノ壽王ニ物ノ具サセヨト云ケレバヤ

長編
小袴

カテ長編直垂小袴ニ萌黄白ノ小腹卷ニ十五サシタル深羽ノ矢重

藤ヲヲソモクセケル

兼久記

○伊賀判官ハ重目結ノ直垂小袴ニ鎧一領前ニ置テ矢ニ腰ナシテ

敵今ヤト待カケタリ

兼久記

○義經百騎斗ニテ白旗サケテ参リタリ何者ソ左右ナク錦ノ直垂

ヲ着白旗ヲサケタルヲ不心得ト宣ハ源九郎義經ト各ノル

参考平治物語頼朝奉義兵

○尊氏公錦甲直垂ヲ少敷頼尚ヘ賜フ

参考太平記

○將軍義輝公錦甲直垂テ毛利元就ニ

京都將軍家譜

○木曾院宣ノ御使小袴ニ懸直垂烏帽子ニ子細ウタセテ髪負モ

小袴

カ、スミテ

盛衰記

次子
狂中

○下蔭男入出シテ次子狂中狂中蓑笠ニ旅籠持テ先達テ伊予

國越

盛衰記湛増同意源氏

○馬モナキ次子狂中ニ編笠ヲ著腰力太刀カツキ

盛衰記佐木取馬下

壺狂中

葉胙中

物具裝束抄ニ備前國ニ多ク麻糸ノ如シシラ編テ用麗美深泥ヲハ殊有便事ニ候

○公方様御小者モハバキキヤハシ十月廿日内野ノ經ノ御成ヨリ三月

三日マテモナヒラレ候兩フリミナワロク候ハバ走衆モ御ヨモノモ脚絆

ヲバトラレ候大名ノ内衆同前大口ヒタレキ候時ハタレモキヤハシラシ

候サウジテアカス子ノ見ヘ候更ヒラウナル更ニ候 大刃紙

小袴○小袴ノ事モトクハフトキカホソキニテコソ候ヘスジナラデハツケ候ハス長

サハアシアツブ、シノヘニマデトビキ候ニツ、リヲハラヒナドノ時ニハク、リ

ヲシメテ其ウニムカバキヲハキ候ナリ當時ハナガバカマノ代ニモナヒラレ候間

ナトナガク候ニ然ルベク候御通ヒナドノ時足ノ見ヘ候ヒラウニ候 大刃紙

○行纏ハキキ唐式云諸府衛士別行纏一具纏音直連友 本朝式云胙中俗云

新抄本草云女箇領井及和名以知比今俗編箇為行纏 和名抄

故附セツ

○年老タル雜色ニ入石寄次次行纏ハキキ兼笠具ニ糞料糞音籠負テ京上

リノ夫ニ作り 盛衰記墨侯川合戦

○佐殿ステニ義兵ヲアゲタフト聞ヘシカバウツ立給フニ秀衡糾地ノ錦ノ

直垂ニ紅スツゴノヨロヒ金作ノ太刀ソテ奉ル馬ハ御用ニミタカツテ

召ルヘシ 平治物語頼朝奉義兵

○左衛門佐重盛生年廿三今日ノ軍ノ大将ナレハ赤地ノ錦ノ直垂ニ

檀ハキ白ノ體ニ蝶ノスソ金物ヲウツタル竜頭ノ冑ノ緒音ヲシメ 平治物語

○木蘭地直垂梅深ヲ云故實也楚辭ニ梅ト云物無キト云イカバアルベ

キ木蘭ト云モノ梅也花木ノ香ニキニ梅ニシクハ無ク草花ノ香ニキ

蘭ナレハ木蘭ハタシテ梅也

○下將直垂被直垂危直垂津直垂者直垂その直垂の直垂ア直垂リ直垂物直垂具直垂々直垂行直垂小直垂色直垂ま直垂く直垂何直垂々直垂を直垂都直垂一直垂々直垂紙

直垂

直垂

○ムカシハエホウシマクヌルフモナカリケルナルハシ此比ヲセエホウシキラメキ
サキエホウシ
キキエホウシ
エホウシ折々カハリテ侍ルメシ
續世継物語

○小スマフ以下二三日ハヨリエモンヲトリテ又オシヲカケテタウ日シナノト
エホウシ
シテヨク候エホウシヲ二三日ハヨリヒタ丹ニ能クメアハセ候補礼集當

世ノ烏帽子ノコトクナリ其時ニ折タメシ證ナルヘシ

○烏帽子見研考ノ後ノ串ヲ保生串ト云ハ猿樂ノ保生付始メシナリ
保生串
今モ烏帽子ノ綴シヲ付保生カ始故保生串ト云モトリニサスリシナリ

○白キ直垂柱立袖ノセハキニ殘之畧女烏帽子引立ヲ立
盛衰記

○行家引立縫物ノ直垂引立同毛ノ鎧引立引立烏帽子引立ヲ着テ郎等ニ相見
日記

○烏帽子上ノ上ニ虎ノ緒ヲシメ
日記

○萌黄糸威ノ腰巻ニ烏帽子ノ尻盒本三重ニ押入膚本三重ハ脱重本三重持セ搦烏

搦烏帽子
鉢巻
帽子引立ヲ立薄紅梅鉢巻シテ
右源平盛衰記左島合戦

上折引立ノ上オリシタル烏帽子
保元平治参考

左折引立ノ公方引立換左折ノ御縁引立金襴引立御着衣引立袴引立御小午引立御脛引立楯引立御腰引立當引立御

丹皮引立繅引立御引立ヒツシキ虎皮
鎌倉年中行事

○白キ引立袖引立黄ナル大引立口引立ヒタ引立レノ袖引立ヲムスヒテ肩引立ニ折引立コ引立キノフ引立ミ引立グ引立ミ引立タ引立敷

引立
ヲイマタケツリモセズ引立アリ引立アゲ引立ニ所引立ニエヒエボシ引立ヒキ引立タテ引立オシ引立モウ引立デ引立ボ引立シ引立ク引立ボ
ニヒキイレテエホシカケヲモツテヒタイニムズトニヒテ太刀引立アリ
義経記

○一引立チ引立ヤ引立ウ引立ノ引立笈引立ニ引立ハ引立オ引立ラ引立ヌ引立エ引立ホ引立シ引立十引立頭引立ヒ引立タ引立レ引立大引立口引立ナ引立ト引立入引立タ引立リ
義経記

○平礼ニ風折ヲ結テ鎧ヲ着タルモアリ
参考太平記

○武藏法師引立ナレ引立尺引立ツ引立子引立ニ引立首引立ヲ引立ソ引立ラ引立ザ引立リ引立ケ引立レ引立ハ引立三引立寸引立ハ引立カリ引立生引立ヒ引立タル引立カ引立シ引立ラ引立ニ引立モ引立ミ
鳥帽子
子引立ニ引立ウ引立シ引立ラ引立エ引立ホ引立シ引立セ引立カ引立シ引立ラ引立シ引立テ引立四引立尺引立ニ引立寸引立ノ引立コ引立リ引立ミ引立ソ引立ノ引立太引立刀
義経記

○烏帽子モト帽子ヲヤハラカナルヘク候昔ハ縮ヲ用タルモ候今ハ紙ヲ添
ニカタメ申候フルキハラカニ候ハ自由ニ成申候野ノ行幸時四
位以下鷹飼者着烏帽子候事見西宮記候故内府令申聞候ハ
野行幸ノ鷹飼着烏帽子野中將様時烏帽子ヤハラカニテ自
然ニ風ニ吹レテソノカシラ折候ヲ後世風流ニ斜ニオリ候折烏帽子
ニ候凡折ノ名コレヨリ出候由申候キ平見所考礼ハ折烏帽子ノルイニ候コレ
モカニラコトリヒラフテ折申候ニ平礼ノ名ヲ得候歟野宮定基に説引之烏
帽子ノ事永仁正安等布衣始記大納言以下至殿上人用之支所見
細烏帽子候件記中細烏帽子着用之人モ相交テ見申候慥ニ秋様ハ不見得
候但推量候所引之烏帽子ト申候ハ歌仙繪ニウシロサマニシハダ
子テオリタル烏帽子見候コレニテモヤ候ハニ尤推量ニ候テ分明ニ所

見フテ候細烏帽子見所考ハ向ニ無覚悟候モミ烏帽子ハ秋本美作ト申烏
帽子師圓成寺故殿下へ調進候今ニ候下官儀彼故殿下ニ六十餘年
親炙候一清河寺言不及此言此此一條垂相詰ニ候キ其許ヨリ尋ラレ候ニ付
被取出候コレハ先年故一位大納言取次テマイラセ候彼美作が家ニ傳
未ノ説候テ調進候由昨今兼候キ猶イマタ其形ハ見不候ヤハラカナル
ヨシハ垂相物詰ニ候キ淡塗烏帽子ト申ハ不及管見候但重服入墨
塗烏帽子ヲ用候ニ淡ニテ墨ヲトメ申候此意ニテモヤ候ハニ佐比烏帽
子ノ事凡烏帽子ゴトニサヒナキハ無之候別ニ佐比烏帽子ト申候ハ
不審ニ存候 野宮宰相定基ノ巻書

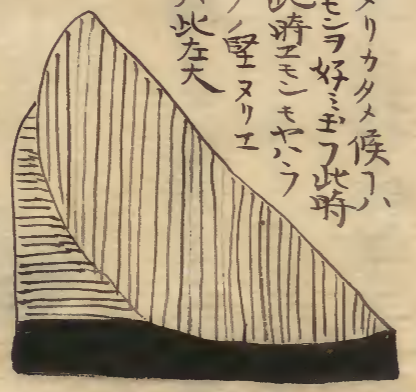
○安蔭判官元盛ニラアラノカリキヌニアサキ赤ノ鎧ニウハオリシタ
ルエホウシノ上ニ宵ヲ着 係元物詰

○兼安四年三月三日ノ曙鞍馬ヲ出テ東路ハルカニ思立心ノ程ヲソカナ
 シケレ其夜カミノ宿ニツキ夜フケテ後チツカラ髪取上テフトコロヨリ
 エホシ取ホシヒタトキテ打虫給ヘハオカノムハヤケンフリ候ヒケルヤ御岩
 ハイカニト問ヒケレハ烏帽子親モナケレハ源九郎義経ト云リ侍
 へし
 平治物語

○云々... 烏帽子... 義経... 侍...
 太平記天下時勢編



上右皆ヤハカニシテ今ノ如キリカクメ候ハ
 白河院ノ猶子花園在左臣モシラ好ミ至フ此時
 ヨリエモシラ付ルト云フ初ク此時モシラハ
 カナハクナシテ見エリト云テ今ノ堅ヌリエ
 ホシヲ初メ至フ今ノ堅ヌリハ此左大
 臣ノ御子也



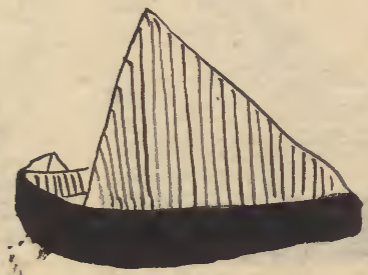
第一
 左へ
 折ル



第二
 右へ
 折ル



第三
 三角
 折ル



第四
左ヨリ
見ル所



第五
右ヨリ
見ル所

右、昔様氏又、宗極様氏ニテ折エホウシノ折カタ也。因ノヨトク、弟ト云ヨリ
段々ニ折ヘキ也

ト子一曹ヨハ脱童ニ持セ、採烏帽子引立薄紅梅ノ鉢巻メ手綱搔鬚扇
ノ方ハ折向

盛衰記玉垂扇ヲ立

○ヤ、太郎人ハ七八人アリ、皆大童ナレハ、民百姓マテニ落人トヤ見ルラシ、其憚

アリ、烏帽子折テ、進ラセシヤトイハ、安キ程ノ度也トテ、宿所請シ入

奉テ、白瓶子ニ口粟ミサマクノ肴ニテモテナシ奉リ、酒宴半ニ烏帽子箱

ヲトリ、中坐ニ候テ折テ人々ニ賦リ奉ル 盛衰記衣笠合戦

立折
凡折
○立エホシラカサ折リ、狩衣ノ袖ヲウナカツイテ 通小町ノ謡

折烏帽子
○義朝ヲ御前ニ召ル赤地ノ錦ノ直垂ニ折烏帽子引立ワイ立計ニ太
カハイタリ 傳元物語一皇三條殿御幸

見附
首張頭巾

思按武ハ出張頭巾作ルカシ、長刀持長柄柄抄持ナトノカワリシ頭

巾也鎌倉年中行事ニ長柄柄抄コハ白布ニテ包ヨ

人妻烏帽子成ヨニテ一ツ

ノ頭巾ヲ傳フ鎌倉年中行事ニ玉張頭巾ノ制アリ其制ニ同シキ故首張頭巾ノ制ヲ得タリ

○御力者或ハ人或ハ又ハ六人何モ出張頭巾トテ黒布ニテクニリテウ

シロノ方ヲハヒロクニニ中一所ハカリトナタルヲカブリシロキスワウニハ袴

ヒツシキニテ太カヲハク兄弟部ハ御長カヲ持ニ番カ者ハ柄長柄抄ヲ持鎌倉年中行事

○シカマノ裾ノ鑑直垂ニ糾頭巾ニ黒糸威ノ大荒目ノ甲ノ二枚六ナ糾頭巾

ルヲ草摺長ニテ下シ

盛衰記宇治合戦



○或ハ柄衣ニ不動袈裟カケタリ或ハ鶴甲ニ鑑着タリ或ハ首丁頭巾ニ腹卷着

盛衰記教養書忠正為義事

○太夫坊覚明ハ首丁頭巾ヲシナハメノ鑑ヲ着ニテ

盛衰記新八幡願

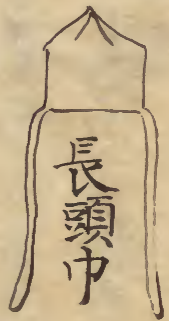
○^後狩ノ御衣ノスヒタルニ長頭巾ヲマキテ

保元

○^前土佐房昌俊ハ黒草ノ鑑着テ首丁頭巾ヲ着タリ

平家物語

ハナカトキニハ那智新宮流ノ山伏カフルニアリ
今ノトキニ背イノ高キモノノ左方再ノワキヨ
細キ平ノケノ紋ヲサケル是ヲ長トキト云



草 蕪枋草 黄蘗草 紫草 褐草 緋結草 若名抄

天平草

函人云横様猿獅子牡丹唐草梅バナ弦走ノ料ニ不動ノ像アリ
眉廂ノ料ニ八幡ニ字ヲソメ天平元年八月十日トアルヨシ傳ヘキ
肥州土人ノ説トハ年月相違アリ

○天平十二年八月靈符版天平草ハ代古閑橋也ニアリ靈符靈符ノ縁記
版ハ妙見山上ノ堂ニ置靈符ハ孝文皇帝ニ始夏詳神仙傳見ヘタ
リ天平草ノ版ハ中ニ天平十二年八月ト有之不動ノ像及八幡ニ字
并梵字等アリ右神仙ノ取アルニハ高貴ヲ忌憚ケリ 佐佐軍記

正平草

猿獅子牡丹唐草梅バナアリテ小短尺内ニ正平六年六月一日トアリ肥
後ノ熊本ニテ取初ソメシヲ上品トス後ニシメハ悪シ

○征西將軍懷良親王ハ代高田ニシテケル時南朝正平年中別板
ヲ彫シメ給フ此板ハ中ニ正平六年六月一日トアリ諸國正平漆ノ權
輿也 土人説

表草 錦草 鴨草

上古漆草甚多シ漆草ヲハ表草ト云シナリ

○ツガケニヌフマシキ草ノ事ニシキ草又何草ニテモアレ無文ノ草ニテ
ヌフマシキナリタトヒト草ニテヒラツグトモソレハ思合儀也ニシキ草
トハオモテカワノトシ 負人草

○或人云俗ニ御免草ト云モノ赤キハ錦草青キハカモカワト云モノ也

○今ノ世ニテモ人ノ腰刀ニ錦赤草ヲ下ケテ火弁袋ト云是也 盛衰記

高山皮

ユカケノ上ハムラサキノトモ草中ハ指ヲムラサキ草ニテツギ下ハ高山皮

ノ丸文等ナルヘシ 三候一統

紀伊國皮 丹後目結菴目皮

スワウノヒホカワノ古又クロムメコモンノツキタル紀伊國草ニカルキヨシ被申

候金仙寺ハクログノモチヒラレシムラサキガワウテマカセテハツケ候マシキ

ヨシフルキ人申サレ候ヒシ云ナカラ近年アツカヒモ候バズ候タウセイ見及

丹後目結 菴目皮 候ハタニゴメヒキメカワナドヲヒモニ付之候サモアルク候 宗正記

菴蒲草 枚立菴蒲

蓋汁ニテ深菴蒲ノ状ヲ白地ニ並如此ソム又枚立菴蒲トイフアリ

如此ソムル今ハバブキテ白點ヲ△如此深ルノミ也

ハ幡黒草

上古ノ褐草也近世ハ幡山下大谷村ニ住スル神人ノ家業トスルニ

ヘニハ幡黒ト云也

鹿ノ丸草

鹿ノ丸草鞭ノ取柄ニセヲヨシ美人草ニ見ヘタリ丸皮トハ鹿ノハラ

ユモリノ皮ナリ

繩目ノ色草 盛衰記

小文藍草

汝カ旗ノ餘リトリカハモナク似タルニ是ヲ押セトテ藍皮一文ヲ

賜下ル給ヘリ某ヨリ白山カ旗注ニ小紋藍皮ヲ押立也 盛良記

魚草

二條三品著ニ煉白地魚草

東鑑

○カケノ上ハムラサキ草中ハ指ムラサキガワニテツギ下ハ高山皮ノ丸
文等ナルヘシ撰フスカワ白草ニアヒカワハ人ニヨルヘシ 三條一統

○式書ニ表草又錦草ト云

○綴皮ト云字ハ何ソ添カハモカハ文字看ル欲俗引書リ當字延喜式ニ綴文ト書キ又波文ト書テキハトヨム綴字ハワナリ彼
ハシワヲモントスレハ心叶ヘリ波モ又ハシワ也同心ナルベ皮ヲモガワニ用フ
依テアラカワト云也草ヲ添カワニ用フ是ヲツクリカワト云字住ニ
モ皮ノ云ル色ヲナレト云リ 塩濃抄

牛皮二張長定計除毛ヲ入除層皮ノ入浸水潤釋入曝涼踏柔柔
四人添綴文草一張長廣抹釋皮ヲ入合和麴鹽沫ノ造ル四人鹿皮
一張長廣等除毛ヲ曝涼入除層皮ノ入削暴和脹槎乾カス
一人羊

添皂草一張長廣燒柔煎烟ニ人添造二人延喜式

○洗草延喜式

○皮又燒皮イタメカハト訓ス又草ツクリカハ説文ニ
去毛ヲ對皮又草ヲシカハ唐韻ニ柔皮假名字例

○白河院ノ近習者ニ坊門中納言親信ト云人御座ケリ右京左大臣
輔朝臣ノ子也彼信輔武藏守タリシ時當國ニ下リテ儲タリケルカ

元服ニテ敘爵シ給ヒタリケルハ異名ニ坂東大夫ト申ケルカ兵衛佐ニ
成タリケルニモ猶坂東兵衛トソ申ケル新大納言法皇ノ御前ニテ

歳テヤマイカニ親信坂東ニ何事共カアルト申サレタリケルニ
兵衛佐取敢ス繩目ノ色草ニツタク候ヘト答タリケルニ大納
言顔ノケニキ少替テ又物モ宜ガリケリ此大納言平治ノ乱
時信頼卿ニ同心トテ六波羅へ召レシ高摺ノ直垂着テ高子小
子ニ縛レテ耻ヲサレシケル事ヲ思出テ繩目ニシテ申ケリ

盛衰記小松殿教訓

